

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：帯広地区
- 2 事例報告学校名：帯広市立啓北小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 西田 健一
- 4 キーワード：学校・家庭・地域のウェルビーイング

1 はじめに

啓北小学校は、昭和58年に北栄小学校と栄小学校の児童の増加に伴い新設され開校し、昨年度で開校40周年を迎えた。当時は、市内でオープンスペースを有する3番目の学校であり、各階に設けられた多目的学習空間であるラーニングでは、学級の枠を越えて、子どもたちが生き生きと学習や様々な活動に取り組んできた。また、本校では、心身ともに健やかで心豊かに学ぶ子どもたちを育むために、通年研究・毎年公開を積み重ね、その時々を教育を取り巻く課題に、教職員が一丸となって取り組んでおり、その学校風土は今まで引き継がれてきている。

そのような学校を支える地域とのつながりも深く、平成19年度には文部科学省の委託を受け、学校支援地域本部事業の基盤がつくられ、地域の子どもたちは地域で育むという視点で、今も学校の取組を支えてくれている。

現在は、全校児童が350名、18学級（特別支援学級6学級を含む）の規模で、「自分らしく、自分から学びの山を登ろう」の合言葉のもと、コミュニティ・スクールを核に、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めているところである。

2 啓北小学校コミュニティ・スクール協議会

帯広市では、これまで学校評議員制度、学校支援地域本部事業、エリア・ファミリー構想（帯広市における幼保小中連携の体制）を通じて、学校・家庭・地域の連携・協働を推進してきた。

そのような中、帯広市では令和元年10月よりコミュニティ・スクールを導入する学校を段階的に増やしており、令和4年度には市内全校で導入された。

導入初年度となる令和元年にコミュニティ・スクールを導入した本校では、既存の啓北小学校区地域ネットワーク委員会を中心に、生涯学習推進委員会、放課後居場所づくり事業である啓北きつづくらぶ、青少年委員会、読み聞かせの会、PTA役員などで構成するコミュニティ・スクール協議会を設置した。これまでの既存の組織が基盤となり、どのような子どもを育てたいのかという目標やビジョンを共有しながら、子どもたちのために活動を進めてきたところである。

3 子どもの笑顔があふれる特色ある活動

(1) 啓北みんなの盆踊り

コミュニティ・スクール協議会の啓北ネットワーク委員会のコーディネーターが中心となり、子どもたちのために夏祭りを8月末の土曜日に開催し、毎年多くの子どもたちが参加してきた。コロナ禍により中止していた時期もあるが令和5年度に復活し、この年には子どもたち、保護者、地域の方を含め400人近い方が集まった。盆踊りとともに、コミュニティ・スクールに所属する委員の方が所属する団体による縁日のコーナーを準備するなど、楽しい企画で楽しませてくれた。



(2) ふれあいコンサート

生涯学習推進委員会の主催で、1学期と2学期の終業式の日、音楽のコンサートを毎年開催しており、定番行事となっている。長期休業に入る子どもたちへのプレゼントでもあり、子どもたちが楽しみにしている行事の一つである。



地域の方にも案内している行事であり、地域の方も集まり、楽しい時間を子どもたちと一緒に過ごしている。

写真は、令和5年度2学期の終業式の日実施したコンサートであり、「情熱大陸」「エリゼのために」「ジングルベル」「群青」など8曲を演奏し、フルートや三味線や太鼓などの音色が響いた。令和6年度の夏は尺八の演奏を行うなど、毎回趣向を変えて楽しませてくれている。

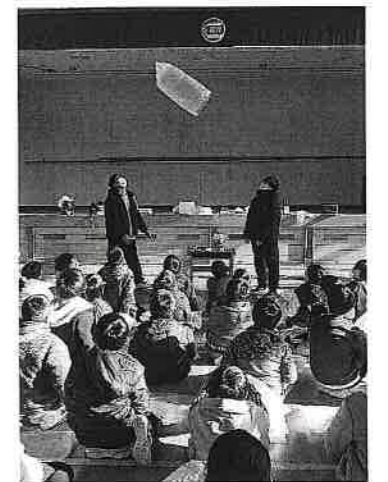
4 新たなPTA活動を求めて

(1) 主体性を大切にしたい取組へ

従前は、入学と同時にPTAへ全ての家庭が入会する状況であったが、令和4年度より、入学時期にPTA活動の意義や役割等について説明し、趣旨に賛同する方が「入会届」を提出する手順に変更した。

また、社会の変化に伴う家庭の生活様式の多様化、多様性を認める時代と価値観の多様化、新型コロナウイルス感染拡大による活動の制約と縮小・見直しなどを行いながら、新たな発想での体制と活動を再構成する必要性を感じ、組織と運営体制を大きく変更することとした。

具体的には、学級ごとに部に所属する常任委員を選出する5部制を廃止し、プロジェクト方式に変更。会員へのアンケートを実施し、取り組んでみたいプロジェクトのアイデア等を広く意見を募集し、寄せられた意見等に基づき、プロジェクトを企画し、ボランティアを募集して運営する形式で実施することとしている。



熱気球体験（4年生）

(2) 子どもが笑顔になる「感動体験プロジェクト」

コロナ禍で活動が制限されてきた子どもたちへ、学校の学習ではなかなかできないような感動を届けたいという保護者の思いを形にしたのが「感動体験プロジェクト」である。アイデアの種を集め、賛同、協力してくれる保護者を中心に、それを形にして子どもたちに届ける活動として、次のようなプロジェクトを実施してきた。

- <例> 昆虫博士（2年生） 熱気球体験（4年生）
理科実験教室（3・5年生） 性教育（3・6年生）
卒業コンサート（6年生の定番プロジェクト） 等

(3) 広報紙やホームページによる情報発信

本校のPTA広報紙は、制作時にPTAのOBの印刷会社の方も関わるなど、紙面構成等にも支援していただき、これまで何度も全国表彰されてきた歴史がある。

現在は、PTA活動の見直しとともに、年に数回発行していた広報紙の形から、年に1度A3裏表の発行に削減している。また、PTA独自のホームページを学校のホームページとリンクさせて開設し、タイムリーに活動を情報発信するように変更している。



令和5年度PTA広報紙「こんにちは」
※第41回全道PTAコンクール 優秀賞を受賞

5 おわりに

帯広市において、先進的に学校支援地域本部事業に取り組んできた本校では、様々な地域の応援団が関わる中で、学校を支える地域の基盤を構築してきた歴史がある。地域や保護者の温かい支援が子どもたちの学びや育ちを支え、子どもたちが明るく素直に育ってきている学校風土がある。

今後もこのことを本校の強みとし、コミュニティ・スクールを核にして、子どもたちの健やかな成長のために、目指す子どもの姿を共有しながら地域に根ざした学校づくりをすすめ、学校・家庭・地域のウェルビーイングを高めていきたいと考えている。